

2015 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

田代 康次郎 (東京慈恵会医科大)

2015年3月20~24日にかけてスペインのマドリードにて第30回欧州泌尿器科学会(EAU)が開催され、私はこの度、JUA/EAU resident programmeの下、会に参加させていただきました。私は昨年引き続きこのプログラムに応募し、今回幸いにも参加するチャンスを得ることができました。プログラムではresistration費用および滞在費を援助していただきました。resistration費用だけでも高額であり、これは大きな援助となりました。

EAU congressへの参加は初めてとなりましたが、日本とは規模の全く異なる大きな学会であり、会場ではplenary sessionの規模の大きさに圧倒されました。各国の泌尿器科医の発表のあり方や英語の違いなども興味深い一面でした。私自身の興味は前立腺癌にあり、数多くのセッションとcourseという講義に積極的に参加しました。近年、前立腺癌分野ではトピックであるCRPCについて大規模スタディの最終報告や、治療に伴う心血管イベント、ステロイドの使用の工夫などについて最新の情報について学ぶことができました。いくつかの情報については、帰国後すぐに診療に役立てることができました。また、最新の画像診断についての発表からは、PSMA-PETやWhole Body MRIといったデバイスで従来の画像検査では見つけられないoligo metastasisの診断・治

療について触れられ、CRPCに対する今後の新しい治療戦略のトレンドを垣間見ることができました。これほど多くの知見を学会から受けたことは、かつてなく非常に大きな刺激を受けました。

21日の夜には各国のresident programmeの参加者を集めたResident Dinnerが催され、同世代の泌尿器科医と交流をもつ機会がありました。日本からの参加者(竹中先生・米虫先生と自分)も含めて50人ほどが集まり、意見交換する場となり、非常に貴重な経験となりました。インド人でイギリスで泌尿器科医をしているDrとは帰国後も連絡を取っており、これからの発展が楽しみです。

また、個人的には慈恵医大にかつて留学していたトルコの旧友に再会することができ、他国での泌尿器科事情や視点について意見を交え充実した日々を過ごすことができました。

今回のEAUのBest Posterの1~2割は日本の先生方が受賞しているのを目の当たりにし、今後は自分が世界に向けて発信をする立場にありたいという再確認すると同時に、日々の診療に努めていきたいと存じます。

このような機会を与えてくださった日本泌尿器科学会、颯川晋国際委員長を初めとした多くの先生方にこの場をお借りして心より感謝を申し上げます。